

三溪園ウォーキング ～春～ を開催しました



三溪園の川幡さんに三溪園のお話を伺いました



藤が見ごろでした



案内役も研究会の会員です

活動報告

GW空けの土曜日の午後、五月晴れの三溪園にはほぼ全員が集まり、最初に約1時間三溪園保勝会参事川幡留司さんから「三溪園、思い出す人々」と題する話を聞く。文献には載っていない興味深い逸話をいくつか聞くことができた。開園当初の三溪園ではお茶のサービスが評判で、お茶は麦茶、香煎で、芥川龍之介が句を作っている。社会主義思想家堺利彦はきれいなトイレに感心したという。大衆小説家長谷川伸は戦後三溪園を再訪したときに山の樹層が変わったのに気が付いた（松の木が薪にされて消滅）。三溪存命の頃鶴翔閣の展示室での美術品鑑賞は時間ごとの順番待ちであったという。臨春閣が大阪春日新田から三溪園に移築されていなかったら大阪空襲で消滅していた…など話は尽きず、またいつか機会を設けることで終了。その後3グループに分かれて、会員のガイドボランティアによる解説付きのツアーに移行。ここでも現場のガイドさんでなければ聞けない話を聞く。閉園の案内を聞きながら大池のさわやかな風を感じ三重塔を後にして帰途に就く。（藤嶋）



大池にて



臨春閣の前で記念撮影